

要旨

近年、日本における英語教育においては、与えられたテーマに対して自身の考えや意見を記述する自由英作文へのニーズが高まっている。しかしながら、自由英作文の学習の始動期にあたる初級英語学習者（CEFR-J A2 レベル：TOEIC 225 点～550 点）や上級英語学習者（CEFR-J B2 および C1 レベル：TOEIC 785 点～990 点）を対象とした自由英作文の教育の普及が損なわれているという現実がある。その主な原因の 1 つが、評価基準の指針であるルーブリックが十分に整備されていないためと考えられる。既存のルーブリックでは、「①本来、自由英作文の質に差がある場合でも、その差を峻別できないという評価の問題」、「②学習者に学習の指針を提供できないこと」、「③自由英作文の評価をする評価者は評価に対して困難に感じたり、長時間の時間を要するという評価の非効率性の問題」、「④指導者に指導の指針を提供できないこと」などの課題が生じている。

このような状況を克服するために、本研究では、既存の自由英作文のルーブリックと異なる CEFR-J A2 レベルと CEFR-J B2 および C1 レベルの学習者を対象としたルーブリックをデザインすることとした。以下に提案するルーブリックの新規性を示す。

- (1) 重回帰分析により抽出した自由英作文の言語的特徴を特定要因の評価指標を評価の観点とする。
- (2) 特定要因の評価指標を評価の観点とした分析的評価とする。
- (3) 評価の観点に対する評価基準（到達度合い）を統計的に検証した定量的数値とする。
- (4) 評価の観点に対する評価基準（到達度合い）の得点を自由英作文の言語的特徴を抽出した重回帰分析の各説明変数の標準化係数 β 値（全体的評価に対する評価の観点の貢献度）の比率により設定する。
- (5) 評価を示す記述に加え、評価の観点の評価基準（到達度合い）ごとの定量的な数値を掲載し、学習者や指導者に提供することができる。

本研究の結果として、CEFR-J A2 レベルの学習者を対象として「情報性の豊かさ」、「語彙や文体の難易度」、「エラーが少なく、熟達した英文」を評価の観点とする自由英作文のルーブリックをデザインした。また、CEFR-J B2 および C1 レベルの学習者を対象として、「構成」、「内容」、「言語使用」を評価の観点とするものと、「言語使用」、「語彙や文体の難易度」を評価の観点とする 2 つの自由英作文のルーブリックをデザインした。

これらの 3 つのルーブリックによる評価と自由英作文を印象度によって評価する全体的評価との間には高い正の相関関係があり、3 つのルーブリックによる評価の有効性が検証された。また、これらのルーブリックは上述した既存のルーブリックの課題を解決できることも提示した。従って、提案したルーブリックは自由英作文の教育の普及を促進するツールになると考える。